

教員についての基本情報

教員名	土屋 善和 准教授 (TSUCHIYA Yoshikazu)
担当教科と分野	家庭科 教科教育
研究分野	家庭科教育、消費者教育
担当授業	家庭科教育法 A・C、家庭科教育実践研究 I、消費生活と環境、生活経営学、生活経営学実習、初等家庭科教育法、家庭など
授業についての一言	主に指導法を担当しており、家庭科の授業構想や教材開発を行っています。また、学生同士のディスカッションやプレゼンテーション等のアクティブラーニングとなる形態を多く取り入れ、主体的で深い学びとなるよう心掛けています。専門科目である消費生活や生活経営の授業では、家庭科教員に必要とされる専門に関する基礎的理解を深めることだけではなく、生活者として自身の生活を多面的に見つめ直す視点を養い、自己の生活課題の発見及び解決ができるようになることも目指しています。

研究の内容

家庭科における学力（特に批判的思考）に関する研究を進めています。家庭科は、一般的に「技能教科」と捉えられることから、生活における知識技能の習得を目指す教科と思われるがちです。しかし、家庭科は生活を創造する力を備えた生活主体を育てる教科であり、学習を通して生活を築くための考える力や実践力を育むことが可能です。したがって、家庭科は、現在・将来の生活を主体的かつ他者と協働しながら切り拓くための汎用的な資質・能力を育める教科であると考えています。そうした家庭科教育の意義と可能性を学校教育の学びの成果である「学力」という観点から明らかにすることを研究の目的としています。

これまでに研究室で取り組まれた卒業研究の内容

学生には自身の問いをベースに研究テーマを設定してもらっています。家庭科は生活を題材とした教科であることから、生活のあらゆる事象が研究対象となり得るため、学生の興味・関心をベースにテーマ設定をすることができます。以下は卒業研究の一例です。

- ・「自立」の視点を入れた「男女共同」を目指す家庭科学習に関する研究
- ・「家族の多様性」への気づきを生む家庭科学習の検討
- ・学校図書館を活用した家庭科教育の検討
- ・SDGs の達成に向けた家庭科学習の充実を目指す教員向けハンドブックの開発
- ・環境に配慮した行動を主体的に行うための家庭科の授業実践の検討 など

研究のキーワード

家庭科, 学力, 生活を創造する力, 思考力, 批判的思考, 消費者（市民）教育, 授業研究, 教材開発 など

研究室の様子

研究室には学部生のみが所属しており、各自のペースで研究を進めています。3年次前期より配属され、まずは研究について理解を深めるため論文レビューを中心に進めます。4年次では、研究計画をもとに教科書分析や質問紙調査、検証授業等を実施し、データの分析・考察を進めていきます。そして最終的には卒業論文を執筆します。